

大学生ワークショップ アンケート結果

1、 あなたが今日、参加した理由は？

(福島県への関心)

- ・ 県外出身で福島について知ろうと思ったから。
- ・ 自分が今まで住んでいる県について考えてみようと思ったから。
- ・ 福島県で新しい総合計画を作成するという話を聞き、どのような内容なのか興味を持ったから。
- ・ 福島の現状を知りたかったから。
- ・ 福島県のこれからについて考えることのできる貴重な機会になると考えたから。
- ・ 福島県の行政に興味があったため。
- ・ 福島を活性化させたいから。
- ・ 地域の未来について考えることが好きだから。
- ・ 将来、福島のまちづくりに携わりたいと考えているから。
- ・ ふくしまの未来について興味があったから。
- ・ 福島の課題解決に興味があったから。
- ・ 色々な情報が得られるから。
- ・ 福島県の魅力や今後改善すべきことを考えたかったから。
- ・ 自分でも福島の未来について考えてみようと思ったから。

(周囲の人への関心)

- ・ 福島県について、他の人とコミュニケーションを取りたかったから。
- ・ 福島県の色々な大学の方と話してみたかったから。
- ・ 他大学の学生の意見を聞いてみたかったから。
- ・ 福島のこれからについて、他の大学生と意見を交換したいと考えたから。
- ・ 他大学の人たちと福島についての意見を交換し、話し合ってみたいと思ったから。
- ・ 福島県内の大学生と交流したかったから。
- ・ 同世代の人がどのような考えを持っているのか知りたいと考えたから。
- ・ 地元の福島の未来について色々な人と話したかった。
- ・ 周りの人は福島についてどう考えているのか知りたかったから。

(自己研鑽)

- 大学で研究したいことと福島県が関連しているから。
- このようなワークショップに参加したことがなかったから。
- 将来地方創生に関わる仕事をしたいから。
- なぜ「福島県で働きたい」と考えるのか、また、他の方はどう思っているのかについて、自分の考えを整理し、新たな気づきを得たいと考えたから。
- 地域振興について興味があった。
- ワークショップに興味があったから。
- 地元である福島について意見を出し合うという場に参加してみたいと思ったから。

2、あなたが今日、気がついたことは？

(福島県について)

- 郷土料理・文化という視点でも県を盛り上げられるということ。
- 福島県の魅力。
- 当たり前だった福島の良さを再確認できた。
- 思っていたより観光地は少なかったけれど、有名じゃないけど有名な場所などを教えてもらった。
- 福島県の魅力をあげていくと、何個か出てくるけど、一番はこれ！というものが分からず、実際に住んでいる人でも分かりにくい部分があるということ。
- 3つの地域の特色が強いためそのPRの難しさがあることに気づいた。
- 情報発信の難しさについて、とても考えさせられた。SNSが充実している時代だが、様々な媒体のメリット、デメリットを分析して上手に発信していかなければならないと思った。
- イノベーション・コースト構想のロボット施設の知名度が低いという課題があることを知った。
- 福島の課題は、みんなほとんど同じことを挙げていて、根本的な問題は同じだと気づいた。
- SNSでのPR方法には限界があること。
- 福島県の過疎化が思っていたよりも進んでいた。

- ・ 課題・解決策はそこまで変わらずに一定・持続する難しさ。
- ・ 問題点やその解決策がそれぞれ似ているような感じがした。
- ・ みんな同じようなことを考えているが、なかなか改善されない。自分ができること、すべきことを明確化し、それに尽力することが大切だということ。
- ・ 福島の改善点が多かった。
- ・ 「福島は田舎、特に何もない」と思っていたが、私も忘れていた良い所が沢山あった。
- ・ 私の知らないいい所が知れた。
- ・ いろんな学年との関わりで、自分が思いつかないようなものも多くあり、福島の良い所の気付くことができた。
- ・ 福島の良さを再確認できた。
- ・ 普段生活していて、見えていなかった福島の魅力が沢山あった。

(みんなについて)

- ・ 多くの視点が大切ということ。
- ・ 一人一人のしている視点が違うこと。
- ・ 夢を持っていること。
- ・ 思ったよりも和気あいあいとしていて、価値観も人それぞれ違うわけで話して、聞いて、とても充実していた。
- ・ 皆もそれぞれ福島を思っていた。
- ・ 他大学の学生と交流してみて「大学生」という身分だからこそ、できることが非常に多いと感じた。
- ・ 他の大学の人も地域の課題などについて同じような考えを持っていたこと。
- ・ 福島出身の参加者が多かったこともあり、みんなが今後の福島県について真剣に考えていた。
- ・ 大学同士の交流を望む学生が多いということ。
- ・ 同じ学類や大学でもゼミナールが違えば、している活動も全く異なっており、これから大学内や他大学の人々と情報交換や連絡をとっていったと思った。
- ・ 他の方々が感じている福島の課題には共通点があることについて気付いた。
- ・ 専門が違えば、その分意見も異なること。
- ・ みんな福島について考えながら生活していること。

- 様々なアプローチで地域に入って活動している大学生がいること。
- 福島について、しっかり考えている人が沢山いるということ。普段は県についてこれほど話し合う機会がないため、福島を想う若者が周りにいることに気がつけて良かった。
- 他学科の行っている内容について、ほとんど何も知らなかった。
- 福島をもっと活躍しようとしている若者が多いと思った。
- 人によって考えは様々であること。
- 自分が思っていることは、周りの人も思っている。
- みんな考えていることが同じ。

(自分について)

- 自分は福島について何も考えていなかったこと。
- 自分がどれだけ福島が好きなのかを知った。
- 福島の事を知らないということ。
- 福島に住んでいても、福島について知っていることが思ったより少なかったこと。
- 思っていたより、福島の事を知らない。
- 知らないことがまだまだたくさんあるということ。
- 地元出身であるのに、色々な人の意見を聞いて、まだ知らないことがたくさんあったこと。
- 福島県について、自分がどのように思っているかについて改めて気が付くことができた。
- このようなワークショップを開催して下さる方々は学生に期待してくれているのだということに気づき、ありがたいと思った。
- 福島の魅力に気付いていないところがたくさんあった。
- まだまだ福島について知らない事が多い。
- 他大学生の関りがもっと欲しい。
- WSを進める上で、聞き役に回ることの大切さ。
- 意外と福島について知らないことに気が付いた。
- 当事者意識をもって、自ら福島県にもっと接していかなければならないと思った。
- 人の前で話す緊張し、思うように話せないこと。
- 何かを考えるのは楽しい。

- ・ 福島県についてまだ知らないことがたくさんある。
- ・ 知っているようで、知らないことが多い。
- ・ 自分が住んでいる場所について考えたことがなかったのだと気づいた。
- ・ 他学部や学校の違う人と話すことによって、自分の持っていない視点でものを考えることができるのだと思った。
- ・ 学生でもできることは沢山ある。
- ・ 発信、行動が大切。
- ・ 学年や出身、国籍すら違っていても、ここまで楽しく活発にワークショップを行えること。

3、 あなたが今日、嬉しく思ったことは？

(新たな発見・気づき)

- ・ 同世代の人たちと福島県について未来について語り合うことで、新しい視野を学べたこと。
- ・ 今までの様々な経験から新たな発想が生まれたこと。
- ・ 他の人の視点から見た福島の良さを知る事ができたこと。
- ・ 若者の手でも福島を変えていけると思った。
- ・ 福島について知る事ができた。
- ・ 新しい知識を得られたこと。
- ・ 一人一人何かしら福島についての改善策を持っていたこと。
- ・ 他の大学、学部の方々と議論することで新しい発見が沢山あったこと。
- ・ 参加者の一人一人が自分の専門分野で得た知識をもとにアイデアを出してくれたので、非常に勉強になったのと同時に、新たな興味がわいた。
- ・ 自分の知らない知識が増え、意欲の高まりを感じた。
- ・ 色々な情報を得られたこと。
- ・ 福島県についてたくさん考えることができたこと。
- ・ 自分の住んでいる場所についての良いところを知ることができた。
- ・ たくさんの人と話し考えることで、地域の事をもっと知ることができた。
- ・ 意見を交わすことで新たな発見があったこと。

(対話を通じた交流)

- ・ 大学生同士で夢を語り合えたこと。
- ・ 自分か思っていることを共感してもらえた。
- ・ 他学年の方と交流できた。
- ・ 他大学や他学部の人々の専門分野から見た考えが聞けて刺激になった。
- ・ 色々な人の意見を聞くことができた。
- ・ 知らない人と交流ができたこと。
- ・ 福島への思いを持つ様々な学生と交流でき、良い経験になった。
- ・ 色々な人が福島について自分と同じように何かしたいと考えており、違った意見を聞く事ができたこと。
- ・ 他大学の人たちと濃い話ができること。
- ・ 自分以外にも福島を良くしたいと考えている人がいたこと。
- ・ 他大学・学類の学生と交流し、視野や知識が広がった。
- ・ 自分と同じ考えの人がいることに気が付けたこと。
- ・ 他大学の学生さんと意見を交換することができて、とても刺激的になった。
- ・ 福島への熱い想いを抱えた大学生がいたこと。
- ・ 人口減少や若者の流出が問題になっている中、福島はどうなってしまうのかと不安に思うこともあったが、若い力がまだまだあると感じられたこと。
- ・ 参加している大学生の多くが、地元への郷土愛を強く持っていたこと。
- ・ 自分の想像以上に福島について考えている人が多かったこと。
- ・ 福島の事を前向きに考えてくれている人に出会えたこと。
- ・ 様々な別のコミュニティで、色々な考えを持つ、同世代の人たちと情報と考えの共有を行うことができた。
- ・ 同じ意見を持っている人がいる。
- ・ 予想よりもはるかに建設的な意見が自分からも他人からも出てきた点。
- ・ 先輩方との交流。
- ・ 今まで知らなかった人と交流できたこと。
- ・ 参加者の皆さんと楽しみつつ、議論ができたこと。
- ・ 福島の未来を考える人がたくさんいたこと。
- ・ “いろいろ”な考え方や意見があり聞くのが楽しかった。
- ・ 話したことのない大学生、他学年の方、留学生の方と話すことができたこと。
- ・ いつもの学校生活では、関わらない人と関わる事ができた。

(ワークショップについて)

- ・ 会話に入りやすい雰囲気を皆さんが作ってくれたこと。
- ・ 以前参加したワークショップとは違う視点で話せたこと。
- ・ 今の福島とこれからの福島について話せた。
- ・ ゼミでの経験が役に立ったこと。
- ・ 大学で学んでいることが福島のためになっていると改めて感じられたこと。
- ・ 普段は話し合う機会のない福島県について話し合うことができたこと。
- ・ 自分の話に共感してもらえたこと。
- ・ 皆、積極的にグループワークをして発表もしっかりしていたこと。
- ・ 学校であまりやらないアクティブラーニングをできたこと。
- ・ 自分の意見がしっかり言えたこと。
- ・ 意見を交わし合うことができたこと。
- ・ 自分の今まで思っていたことを口に出せたこと。
- ・ とても充実したグループワークができた。
- ・ 自分の考えが周りの人に認めてもらえたこと。
- ・ 自分の思ったこと（意見）が周りに納得してもらえたこと。

4、 あなたが今日、悲しく思ったことは？

(福島県の改善点)

- ・ 福島はマイナスイメージが多いこと。
- ・ 福島は健康課題が多いこと。
- ・ せっかく大学生同士が話し合っても、実現に至ることは少ないということ。
- ・ 様々な所でCMや広告、雑誌に載せているけど、なかなか伝わっていないということが難しい課題だなと思った。
- ・ 福島をより良くするための解決策は出たが、本当に実行しようとしている気持ちあまり感じられなかったこと。
- ・ 今回の話で出された意見が無駄になることは避けたい。大学なり行政なりで一つでも実現できると良いのではないか。
- ・ 大々的な催しや新聞、テレビ等の露出があるにも関わらず、福島のロボット産業を参加学生のほとんどが知らなかったこと。

- ・ 今日話したことの内容が土台となって、もっと深掘りされるべき。
- ・ 福島から他県等に出て行かれる方が多いこと。
- ・ 福島県の事で悪い情報（風評被害）があること。

（“わたし”の改善点）

- ・ 自分が全く福島の良さを知らなかったこと。
- ・ 自分が人に発信できる福島の知識が思っていたより足りていなかったこと。
- ・ 人前で話すことをトレーニングしなければならないと痛感した。
- ・ 自分の意見をうまく伝えることができなかった。
- ・ 生まれてからずっと福島県に住んでいるが、知らないことが沢山あること。
- ・ 福島や自分自身への課題が盛沢山なこと。
- ・ 自分がまだ福島について考えつくせないことを改めて思い知らされたこと。
「福島が好き」と言いながら、その理由や想いを言語化できていないこと、
他者に伝えきれないことが大きな課題だと感じた。
- ・ 自分は福島について考えていると思っていたけど、抽象的なものが多く、
具体性がなかったなということ。
- ・ 自分の言葉が上手くまとまらなかったこと。
- ・ 言えなかった意見があったこと。

（ワークショップの改善点）

- ・ 他の班との交流が少なかったこと。
- ・ 人が少ない。
- ・ 少し時間が短かったこと。
- ・ 話し合う時間が足りなかった。
- ・ 同じグループにならず、交流できなかった人がいた。
- ・ 発表の時間がもう少しあると、うれしかった。
- ・ このワークショップを行うにあたって、県が我々に求めていること、議論の
着地点がよくわからず、具体性に欠ける話になってしまった。
- ・ 課題ベースだともっとやりやすかったかもしれないです。
- ・ もう少し、いっぱい話したかった。
- ・ ワークショップの時間が少し短い。

5、 あなたは将来、どんな福島県にしたいですか

- ・ 就職先を増やすため、全国展開している企業の本社が県内にある福島県。
- ・ 興味関心があることで、地域を知ろう、発信しよう、生活しようと思うことが出来るとともに、地域発展につなげるため、福島県に愛着を持った人がたくさんいる場所。
- ・ 自分事だと考えることで福島をもっと豊かにできると思うため、若者が自分の夢を語り合え、それをかなえたいと思うような意欲的な人材がいる県。
- ・ 住んでいる人の充実度が高いことが一番だと思うため、住んでいる人が福島に住んでいて良かったと思える（移住したいと思える・遊びに行きたいと思える）福島。
- ・ どの県の人に聞いても、福島の有名な何かを覚えられているような県。
- ・ もっと盛んにたくさん交流できるたのしい福島。
- ・ 他の県の人が福島の場所を知って福島県といえば〇〇と言えるような福島。
- ・ 同じ東北出身として、人口があまり減ってほしくない。
- ・ 福島が好きと言える人がたくさんいる県。
- ・ 住んでいる人が福島での生活に生きがいを感じられるような県。
- ・ 県民の人々に活気があれば様々な活動にチャレンジできると思うため、県民の人々が楽しく、誇りを持って生活できる福島県。
- ・ 住んでいる人が福島県を誇りに思う、また、戻ってきたいという県。
- ・ 一人一人が自分の県に関心を持つことでより発展していけると思うため、住民一人一人が福島県に誇りを持てるような県。
- ・ 世代を問わず楽しく過ごしたいので、高齢者も若者も過ごしやすい町。
- ・ 住民一人一人のQOLを上げることで、住みやすい県。
- ・ 人口減少により、集落・コミュニティの消滅が危惧される中で、それを維持していくことが県民の幸せにつながると思うため、集落や伝統、暮らしを維持していける福島県。
- ・ 県民がもっと福島について知り、誇りを持てる県。
- ・ 温泉、ゲレンデ、日本酒、果物など魅力があるのをもっと理解し、胸を張って、福島県民だと言える県。
- ・ 県民の方、一人一人が福島に誇りを持てる県。
- ・ 助け合いで生活が豊かになると思うため、地域を感じて生活できる県。

- 風評被害や人口減少など、様々な問題を少しずつ改善していくことで、福島に住んでいる人たち全員が自慢できるような県。
- 過疎化が進み、活力のない自治体が増えている現状を改善するため、産業も観光も人々も活力のある県。
- 課題も解決でき、より一層素晴らしい県になるため、福島の個性や魅力が他県からうらやましがられる県。
- 大多数の人がポジティブなイメージを持っているような、明るく元気な地域。
- ないものねだりではなく、あるもの探しを行い、今ある資源を最大限活用できる福島県。
- 様々な課題を解決するにしても自分たちが知る、好きになることが最も必要なことだと思えるため、福島に住んでいる人たちが福島を好きだと思えるような県。
- ここにしかない魅力をもっと知って、発信し、多くの人がそれに気づくことで、誰もが住みたい、住み続けたいと思える県。
- 高齢化を悪く考えるのではなく、知識が豊富な人々が揃っているとプラスに考えてほしいため、お年寄りも現役のように活動する県。
- 優れた技術を持った企業が活発に活動する、技術立県。
- 人口減少の中でどうやって暮らしやすさを作るかが大事だと考えるため、暮らしやすい福島。
- 子供が明るい地域の未来は明るいと思えるため、子どもが笑顔で明るく成長できる福島県。
- 福島県民であると胸を張って言いたいため、すべての県民および県外の方々にとって、何か一つ自慢できるものがある県。
- たくさんの魅力があるものの、十分に伝わっていない部分があると思えるため、また来たい、ここで暮らしていきたいと思えるような福島県。
- 若者が多くて、キラキラが増えている福島。
- あらゆる世代の人間が活力をもって生きていくことができる県。
- もっと若者がキラキラと輝いていれば勉強がどんなにつらくても、そこでゆっくりすることができるため、どんな分野でも魅力がある福島県。
- 地域の交流が深く、地元のイベント（祭り）では賑やかになる県。
- スポーツ社会が活性化していないので、イベントを増やしたりしてスポーツ社会を活性化させたい。

- ・ 他県からも色々な方が来てくれそうなので、観光地やイベントなどが豊富な県。
- ・ 福島県の魅力を一人でも知ってほしいという思うため、国内外に行っても「福島県」がでるような県。
- ・ 明るく賑やかな福島県。
- ・ やさしさを増やし、悪いイメージを減らすため、“キラキラ”を増やし、若者にもっと知ってもらえる県。
- ・ 友達等を通して話が伝わり、もっと福島を知ってもらえると思うため、県外からの人が観光に来たら、何回も来てもらえるような福島。
- ・ 地域とのつながりを大切にして、活性化した福島。
- ・ 楽しくてわくわくできるような物がある福島。
- ・ バリアフリーの改善、若者を寄せつける企画などにより、全ての人たちが幸せになれる福島県。
- ・ 福島を知らない人たち、訪れたことがない人にも魅力を知ってほしいため、人が集まる、活気ある県。
- ・ 老若男女関係なく、みんなが笑顔で暮らせる場所。
- ・ 福祉と言えば福島、と言われるほど、福祉に関心がある県。
- ・ これからも福島に住むため、幸せな場所。